

学生さんへ

臨床研究

「反転授業とチームプレゼンテーションの学生相互評価による
アクティブラーニング化の実態調査」

について

アンケート趣意書

第 1.2 版 2019 年 4 月 8 日作成

岐阜大学医学部看護学科 成人看護学（急性期）分野
研究責任者 西本 裕

目次

はじめに	2
1. この研究の目的と意義	2
2. この研究の方法	2
3. 対象となる学生さん	3
4. この研究の予想される効果と起こるかもしれない障害及び不利益について	3
5. 研究への参加とその撤回について	3
6. 研究に関する情報公開の方法	3
7. この研究に関する情報の提供について	3
8. 個人情報の取り扱いについて	3
9. 試料・情報の保管及び廃棄の方法	4
10. この研究にかかる資金源及び利益相反について	4
11. 経済的負担、謝礼について	4
12. 研究の実施体制について	4
13. 研究に関する問い合わせ・苦情について	4
14. 知的財産権の帰属について	5

はじめに

この説明文書は、あなたにこの研究の内容を正しくご理解いただき、あなたの自由意思に基づいて、この研究に参加されるかどうかを判断していただくためのものです。

担当教員からこの研究についての説明をお聞きになり、研究の内容を十分にご理解いただいた上で、あなたの自由意思でこの研究に参加していただけるかどうか、お決めください。たとえ参加されなくても、今後の修業や成績に不利益になることはありません。また、ご不明な点があれば、どんなことでも遠慮なくお尋ねください。

なお、この研究は岐阜大学大学院医学系研究科医学研究等倫理審査委員会にて承認され研究科長・病院長の許可を得ています。

1. この研究の目的と意義

近年、高等教育の現場でもアクティブラーニングの手法が推奨されてきています。

2年生で履修する成人・老年病態論Ⅱの講義においても、過去5年にわたり、通常の復習型学習のための講義ではなく、事前の予習を重視する反転授業を行い、合わせてスモールグループの学生のプレゼンテーションを行う形式をとってきました。従来は定期試験により成績を提出していましたが、この形式としてから、知識を問うミニテストの総合点と、学生相互の評価によるグループ評価点を集計し、徐々に後者の重み付けを増やし、今では双方の標準化後の得点合計を最終評価としています。知識量とグループ相互評価点には相関が見られ、さらに両者の関係に単純でないパターンがあり、それはプレゼンテーションに対する積極性の違いによる可能性が示唆されました。アクティブラーニングの手法で育まれる要素にはいくつか考えられますが、この調査では病態への関心、チームワーク、資料収集能力、発表能力を取り上げ、反転授業、グループごとのプレゼンテーションとピアレビュー（学生相互評価）による評価によって、どの要素が高まるのかを明らかにすることを目的としています。講義の初期と全講義終了時にこれら能力の自己評価を行い比較することにより、この手法の導入初期と継続期において、どのような教育的支援が必要かを考察し実施していきます。

2. この研究の方法

研究期間：2019 年前期～2021 年前期

予定数：240 名

研究の方法：

この研究への参加に同意いただきましたら、初回と第5回、最終回に AIMS 上で、アンケートを実施します。最終回の1週間後には、アンケート結果を集計し、標準化した成績、アンケート結果の情報から個人情報（氏名、学籍番号）を削除、匿名化して別のデータベースとして研究の対象とします。

ミニテスト得点、プレゼンテーションの学生相互評価得点と、アンケート結果との関係性を分析し、初期および継続期における教育的支援の方法について検討します。

3. 対象となる学生さん

この研究に参加していただくためには、いくつかの参加の条件があります。

◆ 研究に参加していただける方の主な条件

成人・老年病態論Ⅱを履修する学生

◆ 研究に参加していただけない方の主な条件

成人・老年病態論Ⅱを再履修する学生

4. この研究の予想される効果と起こるかもしれない障害及び不利益について

この研究に参加されても、あなたが直接的に利益を受けることはありません。しかし、この研究により、反転授業、グループプレゼンテーション、学生相互評価の効果が明らかになれば、将来、今後のアクティブラーニングの手法の新たな開発に有益となると考えられています。通常のグループ相互評価の時に、1 回に 1-2 分多くの時間を必要としますが、負担のない時間と考えております。

5. 研究への参加とその撤回について

この研究に参加するかどうかは、あなたの自由意思で決めてください。回答されなくても、あなたの成績や修業に不利益になることは全くありません。

また、いったん回答した場合でも、期間中は回答内容を更新、削除することができます。回答期間後には情報の集計、匿名化を学務係にお願いしています。その時点で情報の削除を希望される場合は、学務係に申し出ることで、あなたが不利益を受けることなく研究への参加を撤回することができます。(教員には知らされません。)

6. 研究に関する情報公開の方法

この研究の最終的な結果は学会や学術雑誌で公表される予定ですが、結果は研究に参加いただいた学生さんの情報をまとめた形で報告されますので、あなたのお名前などの特定できる情報が公開されることはありません。

7. この研究に関する情報の提供について

あなたのご希望によりこの研究に参加してくださった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧ください。資料の閲覧を希望される方は、お申し出ください。

8. 個人情報の取り扱いについて

あなたの入力した結果や成績情報をこの研究に使用する際には、あなたのお名前、学籍番号の代わりに研究用のランダムな番号を付けて取り扱います。岐阜大学医学部看護

学科成人看護学（急性期）分野内のインターネットに接続できないコンピュータに保存します。

また、この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、あなたが特定できる情報を使用することはありません。

9. 試料・情報の保管及び廃棄の方法

この研究により得られた情報は AIMS 上に保管され、看護学科学務係で匿名化された後、USB にて研究者にもたらされ、岐阜大学医学部内の施錠された西本研究室で保管され、研究終了後に廃棄いたします。また、研究のために集めた情報は、岐阜大学医学部内のインターネットに接続できないコンピュータで、研究責任者が責任をもって保管します。研究の中止又は終了後、岐阜大学の定める保存期間により、試料は原則論文発表後 5 年、研究等の実施に係わるデータ等は論文発表後 10 年は保存し、その後、岐阜大学の規則に則り廃棄します。

10. この研究にかかる資金源及び利益相反について

本研究は、研究責任者が所属する分野の運営費交付金の研究費を研究資金として実施します。本研究は利益相反専門委員会においてマネジメントを経ており、研究遂行にあたって、研究の結果及び結果の解釈に影響を及ぼすような利益相反は存在しません。

11. 経済的負担、謝礼について

ご参加いただくにあたっての経済的負担、謝礼等はありません。

12. 研究の実施体制について

この研究は以下の体制で実施します。

【研究責任者】

岐阜大学医学部看護学科 成人看護学（急性期）分野 教授 西本 裕

【研究分担者】

岐阜大学医学部看護学科 成人看護学（急性期）分野 助教 三枝聖美

岐阜大学医学部看護学科 成人看護学（急性期）分野 助教 阿部誠人

13. 研究に関する問い合わせ・苦情について

この研究についてわからないことや心配に思うことがあれば、いつでも遠慮なく担当教員にお尋ねください。

担当教員及び連絡先は以下のとおりです。

【相談窓口】

担当教員：岐阜大学医学部看護学科 成人看護学（急性期）分野 教授 西本 裕

住 所：岐阜県岐阜市柳戸1－1

電 話：058-230-3230

電 話：058-230-6000（夜間・休日）

【撤回についての窓口】

担当部署：岐阜大学医学部看護学科学務係（学生による授業評価担当）豊吉美香

住 所：岐阜県岐阜市柳戸1－1

電 話：058-293-3210（平日 9：00 から 13：00 まで）

E-mail：toyoshi@gifu-u.ac.jp

【苦情窓口】

担当部署：岐阜大学医学系研究科・医学部 研究支援係

住 所：岐阜県岐阜市柳戸1－1

電 話：058-230-6059（平日 8：30 から 17：15 まで）

E-mail：rinri@gifu-u.ac.jp

14. 知的財産権の帰属について

この研究から成果が得られ、知的財産権が生じる可能性があります。その権利は、研究者及び岐阜大学に帰属します。研究に参加していただいた皆さんに、この権利が生じることはありません。